

令和5年度 第2回西区区政会議 会議録

1 開催日時 令和5年11月10日(金) 18時30分から20時55分

2 開催場所 西区役所4階402会議室

3 出席者の氏名

伏見 祐子(委員)、秦 喜代子(委員)、吉田 淳三郎(委員)、阪口 元樹(委員)、山東 明(委員)、大林 成嘉(委員)、唐木 南智子(委員)、木下 幹夫(委員)、谷井 舞(委員)、竹下 政稔(委員)、杉本 陽子(委員)、江戸 実(委員)、大藤 有賀(委員)、岸本 結花(委員)、北田 美和子(委員)、信達 和典(委員)、丹下 理沙(委員)、名村 奈美子(委員)、長谷 奈津見(委員)、畠山 力(委員)、藤枝 寛示(委員)、川野 英二(委員)、三村 浩也(西区長)、村上 光司(西区副区長)、松谷 康男(総務課長)、森本 恵二(事業調整担当課長)、玉置 信行(教育担当課長)、折原 裕之(地域支援課長)、大島 一晃(安全安心きずなづくり担当課長)、西村 悦子(窓口サービス課長)、江川 浩子(保健福祉課長)、真田 理恵(保健主幹)、吉岡 範行(子育て支援担当課長)、山中 一弘(生活支援担当課長)

4 議題

- (1) 区政及び地域の課題について
- (2) 令和6年度西区運営方針策定について
- (3) 令和6年度西区予算編成について

5 議事内容

[開会]

(森本事業調整担当課長)

これから令和 5 年度第 2 回西区区政会議を開催します。

定数 25 人の 2 分の 1 以上が出席されており、本会議は成立していることを確認します。

[区長あいさつ]

(三村西区長)

平素は、西区政、市政への多大なるご理解とご協力本当にありがとうございます。今回 16 人の新しい区政会議メンバーにご参加いただくことになりました。新しいメンバーの皆さんには、これまでの議論に沿いながらも新しい視点で議論いただき会議の活性化にぜひ貢献いただきますようよろしくお願いします。

また、あわせて、今回から学識メンバーとして大阪公立大学の川野先生にも参加いただきます。川野先生のお差配により研究室の大学院生の皆さんにも参加いただくこととなりました。大学院生の皆さんには若いみずみずしい感覚でこの会議にご参画いただければと思っていますのでよろしくお願いします。

今回から新しいメンバーになったこの区政会議において、新しいいろいろな意見、提案をいただき、大いに区政に反映していきたいと思っていますので、皆さんにおかれましては活発に議論に参加いただきますようお願いいたします。

本日は、新しいメンバーの方が多数いらっしゃいますので、まずは、グループ討議の中で皆さん方が普段から感じていらっしゃる、西区それから区政の課題についてお話いただき、その後課題も含めて、ご議論いただければと思っています。

いただいた提案、意見については、予算上の制限等はあるですができるだけ区政及び予算に反映させていきたいと考えています。

それでは、新しいメンバーで自己紹介し、打ち解けていただきながら、ざっくばらんに議論いただければと思います。よろしくお願いします。

[自己紹介]

(森本事業調整担当課長)

本日は2年に1度の委員改選後初めての会議です。まずは、自己紹介を行います。地域選出委員はお名前とご所属の地域名を、公募委員はお名前のみのご紹介をこの場でお願いたします。

=委員自己紹介=

引き続き大学院生の皆さんお願いたします。

=大学院生自己紹介=

続いて、区役所から自己紹介させていただきます。

=区役所自己紹介=

[議長・副議長の選任]

(森本事業調整担当課長)

皆さんありがとうございました。

さて、本来なら、ここからは議長に議事運営をお願いすることとなりますが、今回は新たなメンバーで初の会合ですので、議長、副議長決定までの間、私が進行させていただきます。

それではまず、議長につきまして、どなたか立候補または推薦はありませんか。

吉田委員お願いたします。

(吉田委員)

川野委員に議長をお願いしたいと思います。

(森本事業調整担当課長)

川野委員を議長にというお声をいただきましたが、皆さんいかがでしょうか。

=拍手で承認=

(森本事業調整担当課長)

それでは、川野委員に議長をお願いしたいと存じます。

続きまして、副議長を選任いただきます。こちらも立候補または推薦はありませんか。

秦委員をお願いします。

(秦委員)

西船場の伏見委員を副議長に推薦します。

(森本事業調整担当課長)

伏見委員を副議長にというお声をいただきましたが、皆さんいかがでしょうか。

= 拍手で承認 =

(森本事業調整担当課長)

西船場地域の伏見委員に副議長をお願いします。

それでは、川野議長、伏見副議長の体制で今後区政会議を進行させていただきます。

一言ずつご挨拶をお願いします。

(川野議長)

大阪公立大学の川野と申します。皆さんにご協力いただきながら進めさせていただければと思います。よろしくをお願いします。

大阪公立大学は2022年に大阪市立大学と大阪府立大学が統合されてできた大学です。私たちは文学研究科といい杉本町にキャンパスがあり、2021年まで大阪市立大学でした。今回、大学院生も区政会議に参加させていただいていますが、入学年度によって、大阪市立大学の院生と大阪府立大学の院生が混じっているという状況になっていますが大阪公立大学と認識していただければと思います。

私たちは社会学教室というところに所属しています。社会学といってもよく分からないかもしれませんが、もともと大阪市立大学では都市研究が有名で、大阪市でいろいろな調査や研究をする研究者が非常に多いところです。

私も特に大阪をフィールドにして学生たちに社会調査の方法について教えています。

社会調査とは、要するにアンケートを取って統計的に分析するとか、実際に住民の方

にいろいろな話を聞いてインタビュー調査をする方法などです。私もここ 10 年以上、大阪、特に大阪市が多いのですが、住民の方にはいろいろなアンケート調査をしてきました。その中で何度も西区の住民の方にもアンケート調査にご協力いただきました。ご存知のように大阪市は非常に多様な地域です。西区も大阪市の中で非常に特徴的な地区だと思います。今人口が非常に流入し増えている。あるいは子育て世帯が増えているとか、他の地区と比べて割とゆとりのある生活を送っている方の割合が高いとか、特に生活満足度が非常に高い、ということが私たちの調査で分かっています。ただその中でも、地域の住民の方たちにはいろいろな困り事であるとか、もっとこのようになればいいのに、ということはいくつもあるのではないかと考えています。

このような機会を私たちの研究グループの中で皆さんにいろいろな話を聞きながら、それを取りまとめて皆さんにフィードバックしていける機会になればと考えています。今回は 5 人の大学院生が参加させていただきます。なかなか不慣れですのでご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、少し大目に見ていただければと思います。私たちもこれから学んで成長していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(伏見副議長)

西船場の伏見です。今回 2 期目で、区政会議には令和 3 年、4 年と参加させていただいて、委員の皆さんはいろいろな意見をお持ちであり、区政会議は意見をいえる場であることを実感しました。今回もあと 2 年、これまでと同じように、区政会議が皆さんで意見を言い合える場になって、その意見が西区政に反映されたらと思っています。よろしくお願いいたします。

(森本事業調整担当課長)

それでは、ここからの進行は川野議長にいたします。

[令和 5 年度区政会議委員アンケート集計結果]

(川野議長)

それでは、まず次第の5 区政会議に係る報告について、区役所から説明をお願いします。

(森本事業調整担当課長)

お手元、区政会議に関するアンケート集計結果という資料をご覧ください。このアンケートは区政会議の進行等について、区役所として改善すべき点を明らかにする目的で、24区共通で毎年1回6月に各区の区政会議委員の皆様を対象に実施しているものです。今回は、改選前の委員を対象に実施したアンケート結果ですが、今後の参考として紹介させていただきます。

設問は、議論が活発化しているかという総論的なものから、お配りする資料の質や量、時間配分が適正かという各論までさまざまな内容になっています。

まず資料の番号の1をご覧ください。これは区政会議の意見交換について、委員と区役所との間で、または委員間で活発に行えているかをお聞きしたものです。95.2%の委員から肯定的な評価をいただいています。引き続き、議論を進行する各課長のファシリテーション能力を磨きながら、今回から参加いただく大学院生の力もお借りして取り組んでまいります。

一方で、その下の番号2のとおり、個別に見た場合、多くの委員が課題認識をお持ちの事項もあります。アでは3割の委員が「会議前に十分資料を読み込む時間がない」と感じています。会議資料を十分にご覧いただくため事前送付していますが、この結果が出ていることから、次のイで8割の委員からご指摘をいただいた「資料の多さ」「分かりにくさ」が、根本的な要因ではないかと感じています。前回の区政会議でも、多くの資料が五月雨式に配付され訳が分からないという指摘もいただきました。

それを踏まえ、今回から基本資料という位置付けで、緑のファイルをお渡ししています。これから区政会議の際には皆さんにはこの資料をお持ちいただき、区役所はその都度、最小限の資料を配付する形に改めたいと考えています。

続いて、次のウ「討議の前提となる区政の現状や行政の仕組みについての知識不足」

もほぼ半数近い委員が感じている事項です。先日、新任委員を対象として、将来ビジョンをもとに区の現状、現況などを説明させていただきましたが、これとは別に、委員の皆さんのニーズを踏まえ、テーマ別の勉強会等の開催も考えていきます。本日のグループ討議でも意見をいただければと思います。

続いて裏面の番号3をご覧ください。今後の区政会議の運営に関わりどのような取組や工夫が必要かについてです。番号2の課題認識とリンクしており、資料の内容や勉強会の実施に関して要望がありました。区政会議での意見を反映した区取組を明示すべきとの意見もいただきましたので、取りまとめて提供していきます。

次に番号4をご覧ください。区政会議における意見や要望評価について適切にフィードバックが行われているかという設問に対する回答です。9割を超える委員の皆さんから肯定的な回答をいただきました。その理由として、番号5に記載のとおり書面での回答を評価いただいたと考えています。

最後に番号6のその他の意見ですが、ここでも資料削減が上がっていますので、資料削減の工夫を続けていきます。

より議論を深めるため、年3回の区政会議の回数を増やすべきとの意見もいただいています。皆さんの負担を増やすことにもなりますので、改めてアンケートを実施するなど意見をいただきながら対応を考えたいと思います。

[グループ討議]

(川野議長)

ただいまの説明について質問等がありますか。無いようでしたら続いて次第の6グループ討議に進みます。

各委員が日頃感じている区政及び地域の課題について、まずは共有いただいたうえで、令和6年度西区運営方針及び予算への反映も念頭に、課題解決に向けた対応について意見交換していただきます。一方で、区役所においては本日の議論結果を踏まえて令

和6年度の運営方針及び予算案を策定して、次回1月に予定している第3回区政会議で案を示していただくという流れになっています。

意見交換は事前に希望をお聞かせいただいた4つのグループに分かれて実施していただきます。具体的な議論の方法等については区役所から補足の説明をお願いします。

(森本事業調整担当課長)

グループのメンバー分けについては人数の関係もあり、必ずしも第1希望のグループとなっていないかもしれませんが了解いただきますようお願いいたします。ひとまずこのグループに所属していただきますが、今後必要に応じて調整させていただきます。

本日のグループ討議にあたり、各グループのテーマに沿って、区政の良い点、改善すべき点、疑問点及び日頃思っていること等についてあらかじめ考えをまとめていただくようお願いしていました。本日はこれから2年にわたる議論の入口であり、まずは委員の皆さん一人ひとりが区政及び西区に抱えている思いや課題について委員の間で共有いただくことを目的としています。区役所としてもいただいた意見を吟味し、来年度の区運営方針及び予算に生かせるもの、生かすべきものについて1月に実施する次回区政会議でお示ししたいと思います。会議の進行は、各グループのテーマに従い担当の課長が行いますので、委員の皆さんは自分の考え、思いを披露してください。グループ討議の具体的な進行ですが、最初に各委員の自己紹介、これまでの区政への関わり、今後取り組んでみたいこと、委員間で共有したいことなどを紹介いただきますようお願いいたします。院生の皆さんも、今後の研究に取り組みたいことなどを紹介してください。

1時間の討議時間のうち、概ね15分から20分程度は自己紹介に充ててください。その後、各課長は委員の考えや疑問について答えながら、掘り下げるべき議題を拾い上げ、委員間での議論が進むようファシリテートしていただくようお願いいたします。

今回から大阪公立大学の院生の皆さんにグループ討議の記録及び発表を担当いただくことになっていますが、院生の皆さんも自由に意見を述べていただければと思います。

(川野議長)

それでは、グループに分かれていただき意見交換を始めてください。時間はこれから概ね1時間程度とさせていただきます。各課長の進行で進めてください。

= 一旦中断 =

[グループ討議結果の報告]

(川野議長)

それでは、会議を再開させていただきます。各グループ5分程度で取りまとめた内容の報告をお願いします。院生のまとめに補足が必要であれば、課長及び委員の皆さんにお願いできればと思います。

まずは、地域コミュニティ・防犯・防災グループからお願いします。

(地域コミュニティ・防犯・防災グループ)

防災がメインの議題として議論されました。参加された委員は、子育てをしている方、阪神大震災を経験された方などいろいろな方がおられて、それぞれの立場から防災と地域コミュニティの繋がりについて、主に南海トラフ地震を想定してどのように備えをすればいいか話し合いました。

具体的な話としては、一時避難場所と災害時避難所の違いを確認するとともに、町会の担い手が少ない地域、若い人はたくさんいるけれども引き受けてくれない地域などによる地域の特徴の違い、特に木津川の東西で高層マンションなど高い建物の有無が異なり、西側の方が津波の心配がよりあって、西側と東側で考えるべきことが違うのではないかという意見が出ました。

他には、町会に加入していない方には災害時の支援物品や情報を届けるのが困難になる可能性があるので町会加入は大事ではないかであるとか、堀江地域などでは多くの方が参加される盆踊りがあるのでその場を活用して町会加入促進ができないかという話がありました。

(川野議長)

次に福祉・健康グループからお願いします。

(福祉・健康グループ)

発達に個性のある子どもに対し、行政は診断するための支援はするが、長い目で見守っていく対応のできる仕組みがない。多くの子は、数年すれば、集団になじんでいくことも多い。また、高齢者の一人暮らし、妊婦、精神疾患の人々に対してどのようにケアを行っていくのか、いけるかが今後ますます課題となっていくだろうということでも議論しました。子育ての面では、子どもの数が増えているので周囲のいろいろな主体が連携することで子どもが住みやすい環境をどう築いていくのかが課題です。高齢者の見守りの面では、特に一人暮らしの高齢者で他者との関わりをあまり持たない人に対してどのように地域と繋がる機会を増やすか、また町会の敬老会や民生委員がこのような状況を把握できない場合もありますが、そのことを広く認識してもらう必要があります。また、経済的な面でお金があると何とか生活ができてしまい、例えば親族等の扶養義務者による経済的虐待があったとしても課題が見えにくいということや、高齢者の住宅改修等の行政サービスを受けようとする、しつらえが大げさで活用しづらく、もう少し選択の幅や利用しやすいものであればいいのに、といった意見が出ていました。

不登校については、学校に行けない子どもの居場所を作ることが一つの課題になっているとの話がありました。次に、妊婦や健康の問題ですが、産後ケアの補助を受ける時には対象施設が決まっているが自分で自由に選択できることが望ましいという意見が出されました。町会加入については、マンション住民が増えていることもあってか町会に入りたいという人が多くはない中で、町会加入を希望する人がどのように問合せをしたらいいか不明であったり、逆に町会が若い世代に加入するメリットを十分にPRできていないため現状があります。これに対してインスタの活用など世代に応じた手段を検討する必要があるといった意見が出されました。

(川野議長)

続いて、子育て・教育グループからお願いします。

(子育て・教育グループ)

子どもたちが西区についてどう思っているのかという視点から提案がありました。その中で、小学校就学以上の子どもたちの放課後の居場所がないということを中心に議論しました。つどいの広場など乳幼児に対しての支援は手厚いが、小学校以上の子どもたちが放課後に行ける場所は公園ぐらいしかなく、雨天時や、小学校区内に公園がない地域もあるので行き場がなくて困ってしまう。いきいき活動という学童のような取組もありますが、活動場所が狭かったり子どもが行きたがらないことも多いということでした。

解決策としては、既存の場所を活用して、子どもたちの居場所にできないかという意見がありました。図書館の会議室や地域の会館という提案がありましたが、地域によっては利用率が高く空きがなかったり、活動中の子どもの見守り手がないことが課題としてあり、その分も高齢者に負担がいくのではないかと心配する意見も出されました。子ども会としても、ソフトボールや鼓笛隊などの活動がありますが、会の活動を離れてずっと子どもを見守るのは難しいとのことでした。

子どもたちにとっては場所がなく、子ども会にとっては人がいない、という状況がある中でPTAから子ども会、町会へという流れができれば、うまくマッチができるのではないかと。町会経由で申し込めば施設も利用しやすいので、よい関係が築けるといのではないかとのお話がありました。

(川野議長)

最後に、広報・窓口改革・ICTグループからお願いします。

(広報・窓口改革・ICTグループ)

たくさんの意見をいただきましたので主なものをご紹介します。

まずは、マイナンバーカードで住民票を取得するという話です。使い方が分からない

方が多いことを受け地域でスマホ教室を実施しているところがあり、使い方について質問があった場合にはコンビニに同行し操作方法を説明している事例が紹介されました。区役所にも端末があれば、来庁された方に実際に見ていただきながら手順を説明すればいいのではないかという意見が出され、区役所でもまさに取組みを進めていこうとしているとのことでした。

また、母子手帳を電子化し紙と併存できたらいいのではないかという意見がありました。さらに、区役所の窓口で一番何に時間がかかっているかを調べてみると書類の記入に時間がかかっているようであり、区役所での困り事について実施したアンケートにおいても「窓口で申請書を探すのに時間がかかる」ということでした。これに対してはインターネットで閲覧、プリントアウトし、あらかじめ記入したものを区役所に提出できるようにすると簡便になるので、そのような取組も区役所で進めていければと思いますが、システムの関係で区役所単体では対応できず大阪市全体で整備する必要があるという話がありました。

次に、LINEの公式アカウントについてですが、現状、LINEの公式アカウントでは、書き込まれた内容に対して直接回答するという形になっていません。LINEで質問と回答のやりとりができればレスポンスも早くなり、若い人も含めてLINEを活用するのが最も効果的ではないかという意見が出されました。また、例えば、問合わせた事に対して仕事中に電話がかかってくるのは困るが、対応しやすいLINEでやりとりして欲しいとの話もありました。

他には、西区の広報はよく出来ておりここ2、3年は非常によくなっている。西区のホームページからは大阪市や大阪府の情報も閲覧でき、いろいろな情報を入手できるが、広報と広告を混同する方も中にはいるためにクレームに繋がっているのではないかという意見が出されました。さらに、窓口で職員と一緒にタブレット端末を見てもらいながら操作していただくとか、テロップ付きの動画でご覧いただくことができるとよいのではないかという話もあり、動画での操作説明は区役所でも順次進めていこ

うとしているとのことでした。それから、玄関入ってすぐのところに外国人の方にも利用できるような大きな案内パネルを設置し、タッチして検索できるようにすればどうかとのことでした。

[質疑応答]

(川野議長)

では、各グループからの発表その他について本日の会議を通じて、質問、意見があれば伺いしたいと思います。また院生のまとめに対して補足があればお願いします。

(吉田委員)

区政会議では皆さんの色々な貴重な意見が出されています。これらの意見がもととなり実現された暁には、西区から市にあげてもいいのではないか。市全体の中で各区に浸透できるテーマがあれば、もっと広がっていくような気がします。市から府に展開してもいいかと思います。それぞれの自治体ごとに取り組み方針や目標があると思いますが、よい取組はどんどん公表していけば、広がりが出てくるような気がします。そのような活用の仕方もあるのではないかと思います。

(森本事業調整担当課長)

今いただいた意見についてですが、大阪市役所には区長会という内部組織があり、各区長はその中のいずれかの専門の部会に属していますが、担当外の部会でも区での好事例を紹介することができます。区長会も活用しながら、区政会議でいただいた意見や区で取り組んだ実績を展開していきたいと考えます。

(三村西区長)

ありがとうございます。区のよい取組を市全域でもっと広く展開したらどうかという意見だったと思いますが、私も全く同感です。これについては、区から市というのは当然そうであり、各地域から区に、市から府、それから関西全域へという活動が必要だと思っています。区と市の関係でいうと、私のミッションは区の運営が一番大事な

ミッションですが、それと同時に先ほど区長会の話もありましたが、区の意見、区の現状を全体に持ち上げて市の制度に反映させていくことも私の大事なミッションの一つです。したがって今いただいた意見については、私もそこに本当に注力しているつもりですが、改めて意識を高めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。そのような観点での意見もあわせていただけたらと思います。

[議論まとめ]

(川野議長)

他に意見などありませんか。無いようでしたら、私の方で総括という形で少しお時間をいただきたいと思います。

4つのグループで少しずつ話を聞かせていただきました。いろいろなテーマに分かれています。繋がっていると思うことがいくつかありました。そのことも踏まえて話したいと思います。

1つ目の地域コミュニティ・防犯・防災についてですが、先ほどの取りまとめでは防災が非常に重要なテーマとして挙がっていました。大阪の中でも特に西区は大きな震災、津波などの被害が想定されるということがありますので、防災は非常に重要なテーマだと思います。その中で、避難場所をどうするのかということに関してもいろいろな議論があったと思います。その中で、取りまとめにあったように、町会にどのように加入していただき、コミュニティをどのように作っておくのかは非常に重要な点だと思います。私が同席していたタイミングでの話からは、普段は生活する上で非常に便利でいいところだが、防犯という点で何か起こった時には不安があるということが非常によく分かりました。コミュニティという点では、子育て中のお母さんたちのコミュニティ、繋がりというのが非常に強く、同じマンションの中でお互い助け合ったりしているマンションもあり、例えばコロナ禍の時に、たまたま一人暮らしの高齢者とエレベーターで一緒になった時に、「マスクどうですか」と話しかける形で、繋が

りというか気づかいみたいなものがあるマンションや地域が西区の中にはあるということが分かり、非常に興味深いと思いました。西区は子育て世帯が増えており、そのことがキーになるのではないかと思いながら話を聞かせていただきました。

次に、福祉・健康グループについてですが、高齢者の地域との繋がり的问题です。私は、数年前に学生たちと一緒に生野区の高齢者を対象にした調査を実施しました。生野区は、大阪市の中でも高齢化率が非常に高いところですが、一軒一軒高齢者宅を訪ねて回りアンケート調査をしました。その時に、生野区役所と地域包括支援センターに協力していただき調査を実施しましたが、地域包括支援センターの方から学生たちに高齢者宅を訪問したら安否確認を確認して欲しいと言われました。つまり、社会福祉協議会や地域包括支援センターもアウトリーチというか、一人暮らしの高齢者がどうしているのかをよく把握できていない状況がありました。全体像をどのように把握するのか、一人暮らしのお年寄りの生活状況に関して地域活動協議会や地域包括も含めてなかなか回っていないのだということを感じたことがあります。西区の高齢化率はまだそれほど高くはないですが、同じような課題があるのではないかと思います。他にも不登校の子どもの居場所の問題などが議論されていました。

次に、子育て・教育グループに関してですが、子どもから見た西区というものをきちんと視野に入れるべきというお話がありました。子どもにとっての放課後の居場所の問題ですが、大阪市全体でもそうだと思いますが、公園や緑が少なく、子どもたちが自由に遊べる場所が足りていないことは課題であると思います。特に西区では子どもの人口が大阪市の中では非常に増えており、どう対応するのかは大きな問題です。もう一つ、例えば既存の場所を利用するにしても見守り等の課題があり、誰が担い手になるのかという人の問題、つまり場所と人の問題があるという議論がありました。

その時に、課題になったのが子ども会など地域のいろいろな団体の関係です。その地域の組織間の関係づくりについてはハードルが高いという話がありました。関係づくりは非常に大事ですが、具体的にどうするのかとなると難しい課題があり、そこはも

う少し考える必要があるかと思いました。

最後に、広報・窓口改革・ICTグループについてです。西区の広報は非常に評判がよいという報告がありました。高齢者の方にとってスマホの活用は難しい面もありますが、スマホ教室を開催したり個別に対応するなどの支援体制があることが分かりました。ただし、そのような支援にどのようにアクセスするかも重要な話だと思いますので、町会を含めて地域でそのような情報が共有できれば、必要なものへのアクセスがうまく繋いでいけるのではないかと思います。

ICTの活用については、LINEでの質問に対してLINEで回答するという方法はICTが広まるにつれ非常に便利な方法になっている反面、アクセスしやすい人とそうでない人の差にどのように対応していくのか、特に高齢者の場合、活用に必要な情報が足りない、またはそもそもたどり着けないこともあると思います。そのあたりのケアについて、ICTだけではなく先ほどの高齢者の福祉の問題も同じですが、どのように繋がりを作っていくのか、ということをいろいろな分野で考えないといけないと思いながらお話を聞かせていただきました。

このような議論を踏まえて、区役所には令和6年度の取組みを設計するとともに、フィードバックしていただければと思います。

[令和5年度第1回教育会議の報告]

続きまして、次第の7 第1回教育会議に区役所から報告をお願いします。

(玉置教育担当課長)

令和5年度第1回西区教育会議という横長の資料に沿ってポイントを説明いたします。まず、西区教育会議は、各小中学校の学校協議会から1名ずつ選出された計11名の委員から構成されている会議です。

資料2ページをご覧ください。西区役所において実施している教育関係事業として3つあります。

子どもの英語力向上支援事業については中学生対象の英検受験料の補助です。民間事業者を活用した課外学習事業も中学生を対象とした事業であり夏期講習会を民間事業者に請負わせて実施するものです。一番下の子どもの体力・運動能力向上支援事業は、小学生の体力運動能力の向上のためにインストラクターを派遣する事業です。

次に4ページをご覧ください。この中で特にお知りおきいただきたい内容としては、スクールカウンセラー事業があります。この事業では一部の学校を除き週1回、巡回でカウンセラーを配置しています。若干ですが今年度は昨年度に比べて配置時間数が増となっています。

次に、大阪市こどもサポートネットです。これは学校が支援が必要と考える児童生徒がいた場合に区役所と連携して支援を行うというものであり、ここに区役所からスクールソーシャルワーカーを学校の必要に応じて派遣しています。この11月からスクールソーシャルワーカーを1名から2名に増やし体制の増強を図っています。

続いて5ページをご覧ください。三村区政の特徴ある取組みとして、企業連携の取組を積極的に進めています。令和4年度以降、3つの法人と包括連携協定を締結するとともに、協力企業の開拓を行い、現在8法人により学校への出前授業を実施いただいています。

続いて8ページをご覧ください。教育環境改善についてですが、この間、児童生徒が急増している学校に関する進捗状況をお話してきましたが、今年度末をもって一定の改善を図ることができる状況になっています。この中で、特に申しあげると堀江小学校の急増対策として、令和6年4月開設に向け堀江小学校西学舎を新たに建設中です。それから、西船場小学校の北側に、北区になりますが、同じ令和6年4月に大阪市全域から応募可能な新設校である中之島小中一貫校が開設されるという状況になっています。

続いて6ページをご覧ください。教育会議ではテーマを決めて意見交換を行いました。今回は不登校の状況をテーマとしました。西区ではとりわけ中学校が全国平均または

大阪市平均以上と、不登校の在籍の割合が高いという状況があります。小学校も低い状況ではありません。このような状況の中、不登校に関することについて議論をいただいたところです。西区役所としては、不登校生徒の割合がとりわけ中学校で高い状況で、不登校についてはいろいろな要因があったり、原因が分からない状況もありますが、フリースクールや新しく大阪市内で新設される心和中学校以外に居場所の選択肢を増やすことができないか検討したいと説明させていただきました。

詳細については、関係資料及び会議録をご参照ください。

(川野議長)

ただいまの報告について質問、意見等ありますか。無いようでしたらこの辺で終了したいと思います。皆さんご協力ありがとうございました。

(森本事業調整担当課長)

川野議長、進行ありがとうございました。

皆さんも本日は活発な意見交換と議事進行に協力いただきありがとうございました。最後になりますが、三村区長からあいさつを申し上げます。

[区長あいさつ]

(三村西区長)

最後に少しだけお時間をいただき挨拶させていただきたいと思います。まず、本日は長時間にわたる議論をいただきありがとうございました。川野先生はじめ、院生の皆さんも本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。

今回は、新しいメンバーになり、まずは皆さんに「課題をお話してください」ということをテーマとさせていただきました。そのテーマに沿ってお話いただく中で本当にいろいろな意見が出てきて非常に実り多いものになったと思っています。本日のお話の中で出てきたワードについて、区役所でその内容を検討させていただき、区政や予算に反映していきたいと思っています。

今後2年間この体制で進めていくこととなりますが、議論がますます発展していくことを楽しみにしています。

それから、私から追加で何点かお話をさせていただければと思います。

まず教育担当課長から教育会議の報告をさせていただきましたが、その中で特に不登校対策については、本当に注力すべきだと思っています。中学校では不登校の生徒比率は10%以上となっており、40人のクラスだと4人以上が不登校になっている状況で、急激に伸びています。したがって今、対策をしないとこの先どうなるか分からないという危機感を私も抱いています。地元の企業の皆さんともこのような課題を共有しており、応援してくれる企業も出てきています。居場所を作るとか、そもそも不登校とはどのようなもので、どのような対策が必要かを地域の皆さんにまず理解していただきたいと思っています。一番苦しみ対応に悩んでいる保護者の情報交換の場として、また、救いの手をどのように伸ばしていくかについて、今年度から試行で、来年度は本格的に取り組むを進めていきたいと考えています。皆さんにも協力をお願いするかと思います。

それから、本日の議論について私なりのまとめというか解釈を少しお話させていただきます。地域コミュニティ、福祉・健康、子育て、広報など4つのグループに分かれていましたが、共通するキーワードがあると思いました。

1つ目は町会の問題。例えば、防災では避難所でのコミュニティについて、人間関係がない中で、苦しんでいる人たちが集まって本当に助け合えるのか、また、心が通じ合えるのかという問題があります。子育てであれば、子どもの居場所を作るのに地域会館を使いたいという時にスムーズに使わせてもらえるかどうかというのは町会が大きな存在になっていると感じました。他もそうですが、町会について現在西区が抱える課題に1丁目1番地で取り組まないといけない。これは町会だけというわけではなくコミュニティをどうするのかという観点かと思っています。したがって町会だけではなく行事への参加者、団体も育てていって欲しいと思っています。本日は町会から

の代表ではない委員もいらっしゃるのです。そのような方からの意見もお伺いできたらと思います。

2つ目は、各層のつながりの必要性を感じました。コミュニティのところでは、単身家庭とファミリーの繋がりが必要であり、健康・福祉の点では高齢者と若者世代である子育て家庭の繋がりが必要です。居場所づくりの点においても、子どもの居場所を実際に守ってくれているのは高齢者の方であるので、その繋がりが必要であるとお話がありました。いろいろな状況で層の違う方同士の繋がりがこれからも必要であろうということを改めて感じました。

3つ目は、そのこの繋がりをどうするか、どのようにして築いていくかということです。広報グループにおいて、いろいろな話題が出される中でSNSの活用により、相対しなくても繋がり合える、知り合えることが必要というお話をいただきました。これはどのグループにおいても出てきた話題ですので、その繋がりを作るための媒体はSNS、ホームページ、紙、対面が必要である。時と場合、人や組織によって使い分け、それぞれの媒体の利用を効率的に拡充していくことが大切であると改めて認識しました。

ブレインストーミング風にいろいろな意見を出し合っていたいただいたおかげで、今申しあげたこと以外の話もお伺いできたことを非常に嬉しく思います。

子育てグループにおいて、小学生の居場所というお話をしていただきましたが、行政的には、子育てで大変な乳幼児や未就学児に特化しており、小学生の居場所は語弊を恐れず言うと、あるべきだというよりもあったらいいな、という位置付けではなかったと思います。ただ、不登校が小学生でも増えている現状からすると、この居場所は必要なのだろうと改めて思いました。

広報グループでは、業務委託料の見直しについての話がされていました。私も銀行での職務経験があるので区長就任前から大事だと思っていましたが、今日の話聞いて改めて思い出させていただいたと感じました。

具体的にどのような手立てがあるかについては、これから役所の中でしっかり考え、予算を取って対策を打っていこうと思っています。

これから皆さんの貴重な意見を本当に大事にしながら施策に反映していきたいと思っていますので、ご意見をいただき、区政会議員として活動していただきたいと思いますのでよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

[閉会]

(森本事業調整担当課長)

長時間にわたり意見をいただきありがとうございました。本日の会議内容は西区のホームページで後日公開をいたします。また、撮影した動画も YouTube で発信します。次の日程ですが、年明け 1 月下旬を予定しており、改めて案内させていただきます。これをもちまして、令和 5 年度第 2 回西区区政会議を終了します。